

令和7年

文教厚生常任委員会記録

令和7年1月21日

東伊豆町議会

文教厚生常任委員会記録

令和7年1月21日（火）午前10時00分開会

出席委員（6名）

1番	山田豪彦君	3番	楠山節雄君
6番	稲葉義仁君	8番	西塚孝男君
10番	須佐衛君	14番	山田直志君

欠席委員（0名）

当局出席者（なし）

議会事務局

議会事務局長 村木善幸君 書 記 榊原大太君

開会 午前10時00分

○委員長（西塚孝男君） 皆様、お疲れさまです。

ただいまの出席委員は6名で、委員定数の半数に達しております。よって、文教厚生常任委員会は成立しましたので、開催いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

第1点目、所管事務調査についてを議題といたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午前10時00分

再開 午前11時05分

○委員長（西塚孝男君） それでは、休憩を閉じ再開いたします。

6番、さっき休憩中に話したことをちょっと簡単をお願いします。

○6番（稲葉義仁君） 介護施設の皆さんと話したときのことが中心になるんですけども、やはり感じたのは介護保険でカバーできないその前段階にいる人というのが多分認識している以上にたくさんいて、実際はそこに手が回っていないという状況があるんじゃないかと、話を聞いていると感じました。

見つけた分に関しては、地域包括も含めいろんな連携で上手に対応はしていただいている、その点については介護施設の皆さんも感謝しているようなんですが、ただ手が回っていない、このままでいいのかという危機感はあるようなので、そういう意味合いでいうと、地域包括、社協、それから健康づくり課、住民福祉課も含めて何らかの形で体制の強化をするのか、そのところをきっちりカバーしていくという取組が本当は必要でないかなというのが1点と、あとは、これはちょっときちんともう一度確認しなきゃいけないんですけども、聞いていた話の中で介護事業に関わる、そういう施設の運営とかに関わるいろんな人員の基準とかそういう部分で、少し弾力的な、何でしょう、把握の仕方とか読み込み方、捉え方をしていて自治体があって、うまく介護、そういう事業の対象にするしないというのを含めて弾力的に運営しているところというのがあるというのか、ひっくり返すと東伊豆町は少しその辺が

厳しいのではないかという意見があったように記憶しております。

当町で言うと、何だろう、老健というか、ホームみたいな宿泊型の施設みたいなものもない、少ないというところも含めて介護事業にそれほど大きくお金をかけているわけでもないということでもないと思うんですけれども、結果的にそういう部分もあるので、逆に言うとそういうところで今ある施設に貢献できる部分があるのであれば、お互いお話をして、事業を拡大できる余地があるのであれば、そういう努力をしていくのも必要なのかなというところ。

あと、根本的に言うと、こういう介護予防とか、これからどんどん高齢者が増えていくという中で、これから10年、15年が一番きつい時期だと思うんですけれども、その状況の中で当局がこの高齢者に対する、高齢者福祉全般に対する今の体制というのが、これで本当に大丈夫なのかということも含めて足りていないのであれば、よそを削ってでも強化する気持ちがあるのか。逆に、でなければ、社協とか外部組織を少し拡大していくとかというつもりがあるのか。そういうところも含めてどういう認識というか、どういうスタンスで今後向き合っていくのかということも少し当局にはやっぱり考え方をお伺いしたいですよ。

今のままで本当にいいとは誰も思っていないと思うんですけれども、現実どうするかという部分が必要だと思うので、その辺は聞いていただけるとありがたいです。

○委員長（西塚孝男君） あと、3番、どうですか。

○3番（楠山節雄君） 今言われたようなことを実践をしていくのに、やっぱりマンパワーというのが絶対的にそこは必要でしょうから、だから任用職員だとか、あるいはシルバー人材だとかそういうところの別組織にも手伝ってもらいながら、その辺の解決を図っていかなきゃならないと思うんですけども、それはさっきずっと皆さんが言われるように、やっぱりトップの認識がそういうふうにならないとその辺のところ为重点的に力を注ぐということができないでしょうから、本当にこの前のケアマネとの話合いみたいなものを、せいぜい課長なんか参加をする、課長がうまく町長に伝えられればそれが一番いい。そうでなかったら本当に町長自らそういう場に参加をしてもらって、やっぱり高齢者の現状みたいなものをしっかりと認識をしてもらおうという、そういう取組が必要じゃないかなというふうに思いますというか、感じます。

○委員長（西塚孝男君） あと、10番、何かありますか。

○10番（須佐 衛君） はい。今、そのマンパワー不足といいますか、もう人材不足がもう本当に顕在化しているということがまずあるかと思いますが、それによって希望するサービスが受けられない方が増えているということは非常に問題だと思うんですよ。今、高齢独

居という問題を抱えて、訪問介護というものに重点は当てるべきところなのに、なかなかやっぱり国の制度で基本報酬の問題があったりとか、そういうこともちょっと。これは町の問題とはまた違った視点ですけれども、あるのかなと。

あと、そうですね、例えば以前ですと社協などでふれあい祭りですとか、11月に福祉の祭りだとかということをやって、何かにぎやかしみたいな形なんですけれども、そういうようなところから、もう今コロナを経てなくなってしまっているんで、何かやっぱり福祉にもう一度視点を当てて、もちろん仕事のことも大事なんですけれども、そのレクリエーションですとか、そういったことの見方というものも必要かなというふうに、難しいことだけじゃなくて。

そういった意味で、このぐるスポ、東村山で見たぐるスポというのは、スポーツとの融合ということで、こういうイベントも非常に健康づくりのイベントとしてよかったのかなと思います。

○委員長（西塚孝男君） 14番、ありますか。

○3番（楠山節雄君） まとめ役をお願いします。

○委員長（西塚孝男君） じゃ、1番さん、何か今まで感じたことを。

○1番（山田豪彦君） 皆さんの意見をずっと聞く立場で聞いていましたけれども、やはり若いうちからこの町に住んでいたら、終活ノートとか、自分の先を見越したことを明確にしておけば、人にも手伝ってもらうことは手伝ってもらえるだろうし、自分でできることは自分でできるという、先のことを見越したそういう支援というか、つくっていくことが大事なんじゃないかな。なってから騒ぐというのは、なかなか難しいことだということと、上からだったり下からだったり難しいこともある前に、まずは自分のその終活に向けてのいろんなことを作っていくのが大事なんじゃないかなと、すみません、皆さんの意見を聞いたらいろんなそんなことは感じていました。

○委員長（西塚孝男君） 皆さんの話をまとめ、なかなか膨大過ぎてあれなんですけれども、何とかそういう中でまとめてつくって行って、いわゆる町政にこういうことを伝えていくのが一番大切なことだと思うので頑張ってまとめてやっていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

○14番（山田直志君） さっきちょっと出たんですけれども、町ということではないんですけれども、ただ、実際の問題のその訪問介護の部分というのは全て診療報酬から来ている部分があるんで、やっぱり診療報酬の再見直しという部分でのこれは意見書というのは委員会

としても考えて、ケアマネさんたちの実態から考えて、そこは国にお願いをするということなんですけれども、議会としてもそこは動いたほうがいいのかと思うので、皆さんの理解があればそういう準備もしたいなと思います。

○委員長（西塚孝男君） 暫時休憩。

休憩 午前 11 時 15 分

再開 午前 11 時 15 分

○委員長（西塚孝男君） 休憩を閉じ再開いたします。

次、その他、ほかに何かありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（西塚孝男君） ないようでしたら、本日の会議は終了したいと思います。

以上で文教厚生常任委員会を閉会いたします。

閉会 午前 11 時 15 分